

6 「言語技術」を取り入れた指導の工夫

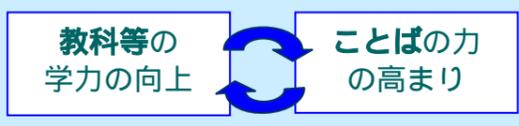
すべての教科等の授業において、「言語技術」を取り入れた指導の工夫を行うことは、論理的に思考し、表現する力をはぐくむために有効である。授業の一部をDVDに収録し、各学校へ配布することになっている。研修会等で活用していただきたい。



授業において「言語技術」を取り入れた指導の工夫を行うことによって、子どもたちの思考力・表現力の基盤となることばの力を高めることができる。また、ことばの力が高まることで、思考力・表現力を含む教科等の学力が向上することも期待できる。

思考力・表現力の育成

- 「言語技術」を取り入れた指導の工夫**
- ・ 思考や表現の手段を指導
 - ・ 見方や考え方の視点を提示
 - ・ 情報を整理する場を設定



思考や表現の手段を指導



国語（小学校第5学年）
結論先行で述べること、主述の整った文で伝えること、理由や根拠を明らかにすることなどを日常的に指導することによって、児童生徒が必要に応じて自分の技術として使えるようになっています。

特に、「ことばの教育」の取組みの初期段階では、児童生徒の自由に任せるのではなく、筋道立てて考える手段や他者に分かりやすく表現する手段などを指導することが有効である。その上で、場面や相手、目的に応じて適した手段を選択できるような力を付けていく。

- 意味を理解させ、自分の技術として使えるように指導することが大切である。
- 言いたいことの明確化**
- ・ 結論先行で述べさせる。
 - ・ 一つの文では、内容を一つにさせる。
- 筋道立てた考え方**
- ・ 理由や根拠を明らかにさせる。
 - ・ 主述の整った文で述べさせる。
- まとまりの意識化**
- ・ パラグラフ（段落）を意識させて文章を書かせる。

国語科との連携（既習の表現方法の活用）

- ・ 「はじめに～、次に～、最後に～」
- ・ 「～だから」 ・ 「例えば～」 など

見方や考え方の視点を提示

- 多角的な見方・考え方**
- ・ 立場や条件による考え方の違いについて読み取らせる。
 - ・ 5W1Hの視点でストーリーの展開を聞き取らせる。
- 秩序だった視点の移動**
- ・ 大まかな情報をとらえた後、詳細な情報について気付きを挙げさせる。
- 相手や目的の意識化**
- ・ 何のために読むのか目的を明確に示す。



理科（中学校第3学年）
2種類のグラフを提示し、その特徴をとらえさせる場面で、まず、大きな情報から読み取らせ、次に、細かな情報を読み取らせています。視点の移動を意識させることによって、考えを整理しやすくなる。とともに、情報伝達の場面においても相手に分かりやすい表現ができるようになります。



道徳（小学校第5学年）
登場人物の心の中にある二つの考え方とそのように考える理由を発表させています。そのことによって、自分とは異なる友だちの考えを知り、登場人物の心情をより深く考え、多様な価値観に気付くことができるようになります。

情報を整理する場を設定



社会（小学校第5学年）
本時の学習に関連する資料を提示したり、学習したことをノートにまとめさせたりする際に観点を示すことによって、情報を整理させ、考えを深めさせています。

- 比較・分類・関連等の場**
- ・ 情報（文、図、絵、グラフなど）を比較させ、共通点や相違点を述べさせる。
 - ・ 必要な情報とそうでない情報に分類させる。
 - ・ 関連付けたり、組み合わせたりさせる。
 - ・ 事実と意見に区別させる。
- 振り返りの場**
- ・ 本時の学び（分かったこと）をノートにまとめさせる。
 - ・ 一度書かせたものを推敲させたり、相互評価させたりする。

【考えを交流する場の充実】

上で述べた3点の指導の工夫において、児童生徒が相互に考えを交流する場を充実させることが大切である。自分の意見と比較させながら友だちの発言を聞かせたり、みんなが納得する理由や根拠を考えさせたりすることは、思考力・表現力を育成するために有効である。



算数（小学校第1学年）
友だちの意見を聞き、自分の立場を明確にして、考えた根拠を自分の言葉で説明しています。それぞれの児童の説明は、相手意識をもち他の児童に分かりやすい表現になっています。

【教師の「ことばの力」を高める】

児童生徒の思考力・表現力を育てるためには、教師の「ことばの力」を高めることが必要である。例えば、児童生徒に課題が明確に伝わる発問をしたり、構造的な板書を工夫したりすることが大切である。